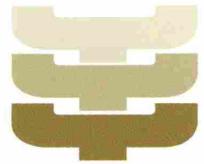


# せたがやの文化財



020

～新指定の世田谷区指定文化財～

## 知行院の木造十一面觀音菩薩立像



世

田谷区喜多見5丁目の知行院に安置されている木造十一面觀音菩薩立像(非公開)が、平成19年12月、区指定有形文化財(彫刻)に指定されました。この像は高さ47.2cm、一本割矧造檜材で造られています。

菩薩像はややおもながの面相で、吊上がり気味の目、張りのある頬、引き締まった口元が特徴です。衣は、おおぶりでのびのびと表されており、自然な感じを教えています。本来如来がまとう衣を着用していることから、鎌倉時代に入り流行した宋風彫刻の流れをくむ像であることがわかります。

知

行院は天台宗の寺院で、天正年間(1573~91)以前から喜多見に所在していたことがわかつています。

本像は、知行院創建時の本尊であるといわれ、室町時代の製作と考えられる、区内でも貴重な古像です。世田谷の中世史や知行院の沿革を知る上でも重要な仏像といえます。

# 国指定史跡 彦根藩主井伊家墓所 —豪徳寺—

井伊家は、遠江国井伊谷を中心に勢力を持った武士で、戦国期には今川氏の配下にありました。井伊家24世とされる直政は天正3年(1575)、15歳で徳川家康に仕え、慶長5年(1600)の関ヶ原合戦においては、東軍の勝利に貢献しました。合戦後、直政は近江国などに18万石を与えられ、初代彦根藩主となりました。続く2代直孝も大坂夏の陣で功績をあげ、近江国、下野国、武藏国世田谷にあわせて30万石を有する、譜代大名の筆頭格となっています。以後、幕末まで井伊家は高い地位にあり、藩主は江戸城溜間に控え将軍に近侍し、ときに大老職に就き幕府政治に参与しました。

寛永10年(1633)頃、世田谷が井伊家所領となったのを機に、領内の弘徳院が菩提寺に取り立てられました。直孝の没後には、その法号「久昌院殿豪徳天英大居士」にちなみ、豪徳寺と寺号を改めています。以後、井伊家墓所として、在職中に江戸で亡くなった藩主や家族がここに葬られました。

墓所の北西角には、豪徳寺中興開基の直孝墓が位置し、そこから南西に直進したところに、幕末の大老、13代直弼(宗觀院殿)墓が配置されています。この参道沿いには、藩主や藩主正室らの墓が整然と並び、豪徳寺伽藍整備に功績のあった亀姫(掃雲院殿・直孝長女)墓がその中央に位置しています。

墓所内で最も古い墓は、直時(広度院殿・直孝四男)のもので、万治元年(1658)に建立されました。直孝が没したのはそ

の翌年で、どちらの墓石も唐破風笠付位牌型で造られ、以降、豪徳寺に所在する藩主、正室、世子、側室の墓石は、いずれもこの形式で建てられています。

墓所の北側の一角には早世した井伊家子息子女らの墓石に混じって、江戸で亡くなった藩士とその家族の墓石も置かれ、これらを合わせると、墓石の総数は300基余になります。

彦根藩主井伊家墓所は、豪徳寺、清涼寺(滋賀県彦根市)、永源寺(同東近江市)の三ヶ寺にあります。清涼寺には、初代直政をはじめ7藩主とその家族、永源寺には4代藩主直興の墓所が営まれ、三ヶ寺の墓所をもって一族の墓が網羅されます。各墓所は將軍家側近でもあった井伊家の姿を物語り、江戸時代の幕藩体制と大名文化を考える上で欠くことのできない貴重な遺産です。このため区では国の史跡への指定を申請していましたが、平成19年11月の文化審議会において史跡に指定すべきと答申され、一括で「彦根藩主井伊家墓所」として平成20年3月28日に国史跡に指定されました。

代	俗名	諡号	墓所	生没年(西暦)
初	直政	祥寿院清涼泰安	清涼寺	永禄4~慶長7(1561~1602)
2	直孝	久昌院豪徳天英	豪徳寺	天正18~万治2(1590~1659)
3	直澄	玉龍院忠山源功	清涼寺	寛永2~延宝4(1625~1676)
4	直興	長寿院覺翁知性	永源寺	明暦2~享保2(1656~1717)
5	直通	光照院天真義空	清涼寺	元禄2~宝永7(1689~1710)
6	直恒	円成院徳岩道隣	豪徳寺	元禄6~宝永7(1693~1710)
7	直惟	泰源院海印指光	清涼寺	元禄13~元文元(1700~1736)
8	直定	天祥院泰山定公	清涼寺	元禄15~宝暦10(1702~1760)
9	直禦	見性院觀刹了因	豪徳寺	享保12~宝暦4(1727~1754)
10	直幸	大魏院弥高文山	豪徳寺	享保16~寛政元(1731~1789)
11	直中	觀徳院天寧宏輝	清涼寺	明和3~天保2(1766~1831)
12	直亮	天徳院真龍廓性	清涼寺	寛政6~嘉永3(1794~1850)
13	直弼	宗觀院柳曉覺翁	豪徳寺	文化12~安政7(1815~1860)
14	直憲	忠正院清節恕堂	豪徳寺	嘉永元~明治35(1848~1902)

—歴代藩主生没年と墓所—



墓所主要部



13代藩主 井伊直弼墓



豪徳寺井伊家墓所 全体図

## 埋蔵文化財発掘調査速報

### 磨製石斧の発見－下山遺跡－

下山遺跡は、瀬田4丁目8番、37～41番、5丁目6～8番付近にあります。遺跡のある場所は、国分寺崖線上に位置し、西側を谷戸川、東側を人々からマムシ谷と呼ばれている急峻な谷に挟まれ、ほぼ南東に突き出した舌状台地となっています。

これまでの調査で旧石器、縄文、弥生、古墳時代の遺跡があることがわかっています。今回は、弥生～古墳時代の遺構である環濠の一部が見つかりました。過去の調査結果とあわせると、環濠の東西規模は97mであると確認できました。

さらに調査区の約3万年前の地層からは完全な形の石斧が3点出土しました。このうち2点は局部磨製石斧と呼ばれ、打製石斧の刃部を丹念に研磨したものです。樹木の伐採や加工、動物の解体に使用されたと考えられます。



出土した局部磨製石斧



環濠全景

### 環濠に多数の土師器－瀬田遺跡－

瀬田1丁目から2丁目にかけて広範囲に広がる瀬田遺跡は、旧石器時代から中世の遺構がのこる区内でも屈指の遺跡です。これまで行われた調査では弥生時代の集落が確認されています。今年実施された発掘調査によって、村を囲む大きな濠が確認され、弥生時代としては区内最大級の村であった可能性が出てきました。濠はV字形に掘り込まれ、幅3m、深さ2.5m以上もあります。



住居址調査風景

今回調査区から見つかった住居跡は1軒だけですが、埋まりかけた環濠から古墳時代初期の土師器がたくさん出土しました。殊に煮炊き用に使われる台の付いた甕は完全な形でまとめて捨てられていて、その数は50個以上にのぼっています。このような状況から、比較的短時間に他の場所に引っ越す必要が生じ、そのときに土器をまとめて捨てていったのだと考えられます。



環濠出土の古墳時代土器

11月1日～7日は文化財保護強調週間です。この間、文化財の保護と活用を考える行事が各地で開かれます。

今年度世田谷区では下記の事業を実施しました。

### ■写真展 世田谷の文化財

#### —文化財保護条例 30 年のあゆみ—

文化財保護条例を施行してから 30 年間に指定した文化財 63 点を写真で紹介しました。

### ■第2回 世田谷区遺跡調査発表会

#### 「下山遺跡、瀬田遺跡の発掘調査報告」

講師：区学芸員他

#### 講演会「関東・弥生時代の環濠集落をめぐって」

講師：安藤広道（慶應義塾大学准教授）

### ■特別公開 旧林愛作邸

講師 谷川正己（元日本大学教授 建築史家）

## 区指定文化財一覧

(平成 19 年 11 月現在)

区分	名 称	区分	名 称
建造物 有形文化財	旧長崎家住宅	古文書 有形文化財	旧荏原郡太子堂村名主森家文書
	武家屋敷門		旧多摩郡鎌田村名主橋本家文書
	旧加藤家住宅		旧荏原郡上野毛村名主田中家文書
	旧秋山家住宅		大平家文書
	勝光院書院		荏原小学校沿革史（甲・乙号）
	喜多見氷川神社石鳥居		旧多摩郡船橋村名主鈴木家文書
	淨真寺三仏堂		旧荏原郡代田村斎田家文書
	淨真寺仁王門		北条幻庵覚書
	豪徳寺仏殿		斎藤寛斎関係資料
絵画彫刻 有形文化財	旧谷岡家表門		井伊直弼画像
	桜上水・八幡神社旧本殿		木造岡本黄石正座像
	旧安藤家住宅	考古資料 有形民俗文化財	稻荷塚古墳出土品（喜多見稻荷塚）
	大藏氷川神社本殿並びに棟札		八幡塚古墳北主体部出土品
	斎田家住宅	民俗芸能 無形民俗文化財	旧浦野家土蔵
	旧小坂家住宅		旧城田家住宅
	木造薬師如来立像（西福寺）		喜多見氷川神社の節分行事と神前神楽
	木造阿弥陀如来立像（宝寿院）		代田餅搗き
	木造十一面觀音立像（觀音寺）		奥沢神社の大蛇のお練り行事
	乾漆珂碩上人倚像		須賀神社の湯花神事
工芸 古文書	木造五劫思惟阿弥陀如來座像		喜多見のまむしよけ
	豪徳寺仏殿像		喜多見慶元寺双盤念仏行事
	勝國寺の木造薬師如来及脇侍日光菩薩立像	風俗慣習 史跡	森巖寺の針供養
	板絵着色大藏氷川神社奉納絵図		砧中学校古墳群四号墳
	遊芸人図屏風		稻荷塚古墳
	豪徳寺の梵鐘		第六天塚古墳
	勝光院の梵鐘		常盤塚
	阿弥陀三尊種子板碑（永徳元年）		奥沢城跡
	阿弥陀一尊種子板碑（明徳2年）		上野毛稻荷塚古墳
	阿弥陀三尊種子板碑		喜多見氏（江戸氏）墓所
古文書	阿弥陀三尊種子板碑（文和4年・上祖師）	指定解除	吉良氏墓所
	阿弥陀三尊画像板碑（深沢）		等々力団子奥伝者
	阿弥陀一尊画像板碑（赤堤・西福寺）		世田谷のボロ市
		※非公開の文化財もあります。 詳細は当係までお問い合わせください	

## 新登録の国登録有形文化財

平成19年10月2日、T家住宅の主屋・門・石垣・水蓮池が文化財登録原簿に登録されました。この住宅は住宅作家であった山田醇が設計し、昭和3年に建てられました。日本の気候風土に適応した「保健的住宅」を提唱した山田の代表作として位置付けられる住宅で、屋敷を囲む大谷石の石垣とともに登録されました。



主屋南側

## せたがや文化創造塾

### 文化財保護条例施行30周年記念事業

今年度、文化財保護条例が施行されて30周年を迎えました。これを記念して、文化財保護審議会委員有志と区教育委員会が協力し、講演や見学会を企画しました。

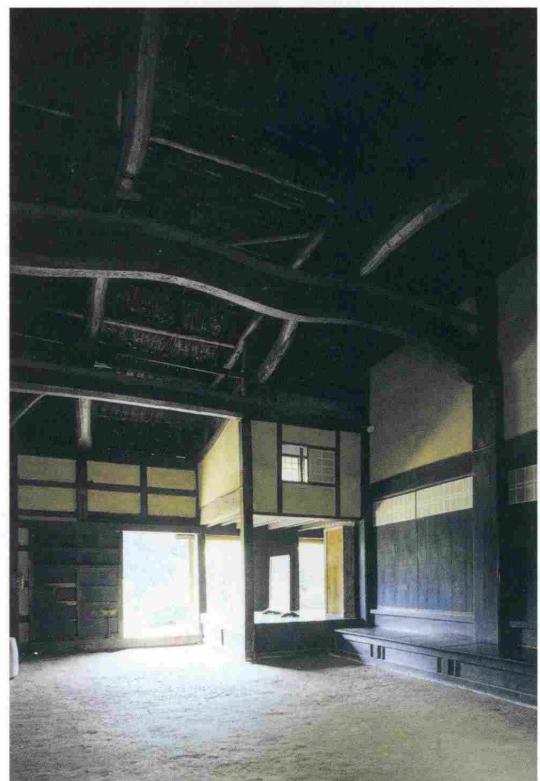
全12コースの内容は、各講師の専門分野のお話を親しみやすく解説したものでした。「重文・大場代官屋敷と代官弥十郎」と題したコ

ースでは、代官屋敷の特別公開を行い、通常非公開の座敷にあがり講師の話を聞くなど、世田谷代官の生活ぶりを感じていただきました。

今年度の記念事業として行った「せたがや文化創造塾」でしたが、たいへん好評でしたので、来年度以降も実施する予定です。

#### 開催コースと講師陣

・重文・大場代官屋敷と代官弥十郎	講師 森安彦 稲葉和也
・人はものさし・手で見る民具	講師 石野律子
・世田谷の建築遺産	講師 稲葉和也
・アンコール王国の華・アンコールワットの技	講師 片桐正夫
・身近な造形物	講師 星山晋也
・仏像は美術品か?	講師 稲木吉一
・美術館の裏方を知る	講師 竹内順一
・関東地方における弥生時代の始まり	講師 山本暉久
・大山信仰・大山講・大山街道	講師 田中宣一
・SETAGAYA Watch ing	講師 服部 勉
・江戸時代・世田谷庶民の一生	講師 森 安彦



重文・大場家住宅主屋 土間  
撮影 清水 裏

#### せたがやの文化財 20

発行日 平成20年3月31日

編集・発行 世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・地域・学校連携課 文化財係

〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27 電話 03-5432-2726 FAX 03-5432-3039